

“日本が誇る世界最高性能固体燃料ロケット「イプシロン」” の技術開発について

主催 京都先端技術研究会, (地独)京都市産業技術研究所, 共催 京都ものづくり協力会

数十万点の部品を使用するロケット産業は裾野が広いだけに、成長軌道に乗れば産業界への波及効果が大きい、と言われています。

そして世界的に、通信や放送、気象関連の商業衛星サービスは、この10年で2倍超の約12兆円に伸びている他、将来は宇宙活動の前線基地や太陽発電衛星などが期待され、産業界への波及スケールは大きいものと考えられています。現在、もっと高頻度に飛べるロケットが求められている。したがってロケット開発の世界も、低コストに宇宙空間と地上を往復できる商業ロケットが次世代ロケットの開発ターゲットとみなされる時代となっており、イーロン・マスク氏のスペースXなどが話題になっています。

今までのロケット打ち上げの常識は、巨大な管制ルームに大勢の管制官が必要、というものであった。これに対してイプシロン計画は、「ノートパソコン2台だけでいいんじゃない?」「複雑怪奇な制御系の発射前点検作業は人工知能方式でロボット化すればいいんじゃない?」「これだと、いつでもどこでも即打ち上げできるんじゃない?」という夢のコンセプトである。液体燃料方式と違って取扱い簡単・即打ち上げ可能という長所がありながら、いったん火がつくと止められない、すなわち制御が難しいとして誰もが見捨てた固体燃料方式を採用し、「いつでもどこでも即打ち上げができる!」というコンセプトで研究開発を開始した。最初の内、「できるわけがない」と冷笑していた欧・米、等のロケット専門家たちも最後は認めざるをえなかった開発技術である。

本日は、固体燃料ロケットの開発に長年携わってこられたJAXAの専門家からその概要を説明していただきます。企業における開発技術の参考になる点もあると思います。多くの方の御参加をお待ちしております。

記

日 時 平成28年9月8日(木) 午後1時30分~3時30分

会 場 京都市産業技術研究所 2階 ホール(裏面地図参照)

内 容 “日本が誇る世界最高性能固体燃料ロケット「イプシロン」”の開発技術について

JAXA 宇宙科学研究所 宇宙飛翔工学研究系,

(併任) 第一宇宙技術部門 イプシロンロケットプロジェクトチーム 徳留 真一郎 氏

定 員 50名(先着順)

受講料 無料

締切日 平成28年9月5日(月)

申込み 参加希望の方は、裏面申込み用紙によりFAXまたは郵送のいずれかにより

京都市産業技術研究所 経営企画室まで申込みください。

〒600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町91 TEL 075-326-6100, FAX 075-326-6200

内容問合せ 金属系チーム ^{かどの}門野 (TEL 075-326-6124)

その他 定員超過の場合のみお断りの連絡をします。

参加申込書

京都先端技術研究会技術セミナー

日本が誇る世界最高性能固体燃料ロケット「イプシロン」 平成 28 年 9 月 8 日（木）実施

参加者名 _____

会社名 _____

所属名 _____

〒 _____

住所 _____

電話 _____

FAX _____

E-mail _____

所属研究会：

現在、困っておられる技術的課題、質問したい内容など

